

希望胸に 大学生生活スタート

令和6年度の入学式が2日（火）、熊本市中央区の市民会館・シアーズホーム夢ホールで行われ、学部生396人、大学院保健科学研究科17人、助産別科21人、キャリア教育研修センター21人の計455人が、本学での学びのスタートを切りました。3月の卒業式・修了式に続いての学外会場での開催。全新入生が一堂に会した入学式も5年ぶりとなります。

令和6年度入学式

(NL編集部)



新入生を代表し宣誓する田中さん

式典では、国歌斉唱の後、竹屋元裕学長が各学科・課程の学生たちに向け「入学を許可する」と宣言。さらに、竹屋学長は、本学の歴史や人生100年時代の医療人の在り方などに言及しながら、「社会の変化を的確にとらえ、それぞれの夢を見据えながら、未来志向型の医療人を目指して、着実に歩みを進めてほしい」と式辞。入学生を代表して田中陽菜さん（リハビリテーション学科言語聴覚学専攻）が「私たちは、これまでの良き伝統を継承しながら、熊本保健科学大学の学生として誇り

を持ち、実りある学生生活を送ることを誓います」と宣誓しました。

式典の前後、会場の周辺では、付き添ってきた家族とともに記念写真を撮る新入生の姿が多くみられました。

◇ ◇

学部学科の新入生の内訳は次の通りです。

医学検査学科115人、看護学科123人、リハビリテーション学科158人（理学療法学専攻75人、生活機能療法学専攻32人、言語聴覚学専攻51人）（NL編集部）



式辞を述べる竹屋学長



3月の卒業式・修了式に続き学外開催となった令和6年度入学式

北区住民の健康増進に一役

地域貢献へ熊本市と包括連携協定



協定を締結後、
本学の関係者、
記念撮影する熊本市と

本学と熊本市は3月21日（木）、同市北区住民の健康増進や地域活性化に関する包括連携協定を結びました。今後、本学の高度な知識と専門的技術を生かし、北区が抱える健康課題の解決などに連携して取り組んでいきます。

同市は平成24年度から、各区役所が小学校区を単位とした「健康まちづくり」を推進しています。本学が立地する西里校区では、市民、行政と本学の三者が協働し、住民アンケート、健康ウォーキング大会、健康学習会などさまざまな事業を展開。また、本学は平成30年度から、北区の若者を対象にしたフレイル予防事業に取り組んでいます。包括連携協定は、これまでの活動を踏まえ、保健医療系大学としてなお一層の地域貢献を果たしたいと、本学が同市に申し入れて実現しました。

市役所庁議室であった締結式では、大西一史市長と木下統晴理事長が協定書に署名しました。引き続き、大西市長が「区単位で健康まちづくりに取り組んでいる市にとって、熊本保健科学大学の専門的な人材、知識、技術を提供いただけるのは

ありがたいこと。これを機に一層の連携を深め、長いお付き合いをお願いしたい」とあいさつ。木下理事長は「健康寿命の延伸に大切な運動、食、コミュニケーションの観点から100年先を見据えた取り組みが必要。（本学が）熊本にある大学であるということを重視して進めていきたい」と述べました。（NL編集部）



協定書に署名する木下理事長（右）と大西市長

「筋肉」学びトレーニングに生かせ 千原台高健康スポーツ探究科



松原副センター長（中央）の指導で、筋力測定をする千原台高の生徒たち

熊本市立千原台高校健康スポーツ探究科の1年生38人が13日（水）、本学を訪れ、最新機器を使っの講義・演習を受けました。

会場のアリーナでは、健康・スポーツ教育研究センターの松原誠仁副センター長が「筋肉を科学する」と題して筋肉の種類や運動単位について簡単な講義。演習に入ると、生徒たちは5班に分かれ、実際にバイオデックス（筋力測定装置）を使って膝関節の屈曲・伸展を担う大腿四頭筋、ハムストリングの力を測定しました。さらに、得られたデータを解釈した後、トレーニングへの応用法を検討しました。

同科は令和5年度に開設されたばかり。担任の小松史果教諭は「新しい学科で、手探りの部分も多いので、今回のような実際に測定器具を使った試みはありがたいです」と話していました。（NL編集部）



懐かしの母校「久しぶり、元気かい」

卒業1年同期会「久しぶり、元気かい（会）」を3月16日（土）、本学レストラン・ピリアで開催し、昨年3月に卒業した72人が、教職員を交え近況を語り合いました。

同イベントは、卒業から1年後に卒業生が集まり、友人や教職員と旧交を温める本学の恒例行事です。コロナ禍のため中断されており、今回は4年ぶりの開催となりました。卒業生の中には沖縄や広島から駆けつけてくれた人も。パーティー形式で行われた懇親会では、レストランを運営する（株）慶賓館によるケータリングに舌鼓を打ちながら、あちこちで話に花が咲いていました。また、「理事長賞」が用意されたビンゴゲームもあり、会場は終始和やかなムードに包まれていました。会の最後は西里ブラザーズのゲリラライブで盛り上がりました。

参加した卒業生たちは「業務に慣れるのに精

いっぱい大変ですが、なんとか頑張っています」「良い先輩になれるようにこれからも頑張ります」「また、大学へ来ます」などとロクに話っていました。（就職・実習支援課）



熱唱する「西里ブラザーズ」。
しかしてその正体は？

待たなし データサイエンス・AI教育

文科省認定へ九州ルーテル学院大と研修会

本学と九州ルーテル学院大学の共催による数理・データサイエンス・AI教育促進のための研修会が3月11日（月）、3108M講義室で開かれ、両大学の取り組みや課題などについて活発なやり取りがありました。両大学とも文部科学省の「数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度（リテラシーレベル）」への認定申請を予定しており、令和5年度から学内プログラムを運用しています。

説明に立った九州ルーテル学院大学の久保幸貴助教は、データサイエンス・AI教育を行う人材の不足や、各教員間で教育プログラムの共有ができていないこと、私的なデバイスの持ち込み（BYOD）に伴う弊害を課題として挙げ、実際に起こった問題についても言及しました。

一方、共通教育センターの水本豪教授は、本学の「保健医療データサイエンティスト育成プログラム」の目的や実施体制、専門部会の設置やその

整備方針など紹介。授業科目や修了要件について説明しました。本学でも人材不足等の課題はあるものの、水本教授は「『データを使って何かをする』というマインドに導きたい」と抱負を述べました。（入試・広報課）



九州ルーテル学院大との研修会で、本学の取り組みを説明する水本教授

学位授与方針の達成に向け意見交換

FDワークショップ

「卒業認定・学位授与の方針（DP）達成に向けた教育の最適化」をテーマにしたFDワークショップが3月6日（水）開かれ、教員66人（医学検査学科22人、看護学科23人、リハ学科21人）が授業科目の到達目標とDPとのつながりなどを確認しました。FD委員会主催、教育改革推進会議・教務委員会・IR推進委員会共催。

50周年記念館の全体会では、竹屋元裕学長と渡辺雄一FD委員長のあいさつに続き、水本豪・FD委員が趣旨説明。その後、参加者は3号館M講義室に移り、学科別分科会に臨みました。

分科会は前半（80分）と後半（30分）の2部に分け、共通教育センター教員がコーディネーターを務めました。参加者は3～6人のグループに分かれ、前半ワークでは、各学科・専攻のDP各項目が学年を追うごとにどのように達成されていくかを模造紙と付箋を使って図に表しました＝写真。活発な意見交換の中で、DPの表現に課題が見つかった学科・専攻もありました。

後半ワークでは、各学科・専攻の特色・強み・

魅力を付箋に書き出し、KJ法で分類。作業を通じ、本学の恵まれた環境、経験豊富で多様な教員群、充実した施設・設備、実習、学生支援体制など、本学の強みをあらためて確認できました。

（FD委員会）



银杏アラカルト

就職・実習支援課を
見学する高校生たち



■天草高校倉岳校生徒が大学訪問 天草高校倉岳校の1、2年生13人が3月13日（水）、本学を訪れました。生徒たちは1303M講義室で入試・広報課職員から大学の概要について話を聞いた後、図書館エリア、就職・実習支援課、レストランを見学しました。就職・実習支援課では、平川文丈課長から就職・実習支援課の役割等について話を聞きました。（入試・広報課）

理学療法士、言語聴覚士、助産師は全員合格

国家試験実績

	R6年（全国平均）	本学合格者数/受検者数	前年（全国平均）
臨床検査技師	86.5%（76.8%）	90人/104人	89.9%（77.6%）
看護師	97.1%（87.8%）	101人/104人	99.2%（90.8%）
理学療法士	100%（89.2%）	42人/42人	100%（87.4%）
作業療法士	98.0%（84.1%）	48人/49人	91.9%（83.8%）
言語聴覚士	100%（72.4%）	38人/38人	83.3%（67.4%）
助産師	100%（98.8%）	21人/21人	100%（95.6%）
保健師	95.0%（95.7%）	19人/20人	100%（93.7%）